

「Re-Pier 工法」が採用された仙台塩釜港西ふ頭棧橋・観光棧橋災害復旧事業が
第4回インフラメンテナンス大賞「国土交通大臣賞」を受賞しました

第4回インフラメンテナンス大賞表彰式が令和3年1月8日にリモートで行われ、宮城県土木部港湾課とあおみ建設株式会社（代表取締役社長：河邊知之）による、「仙台塩釜港西ふ頭棧橋・観光棧橋災害復旧事業」における取り組みが「国土交通大臣賞」を受賞しました。

インフラメンテナンス大賞は、日本国内における社会資本のメンテナンス（以下「インフラメンテナンス」という。）に係る優れた取組や技術開発を表彰し、好事例として広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的として、平成28年より実施されているものです。



表彰式の状況



西ふ頭棧橋復旧完了写真



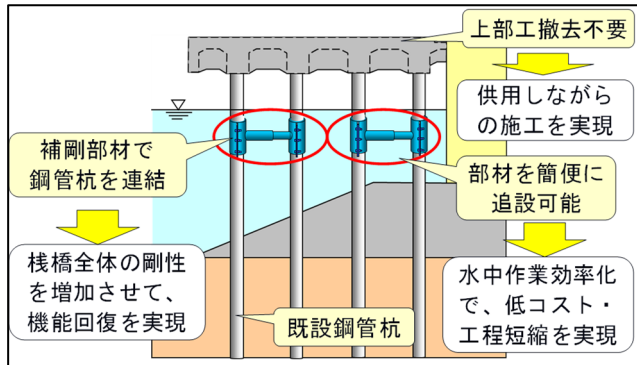
西ふ頭観光棧橋復旧完了写真

【受賞団体概要】

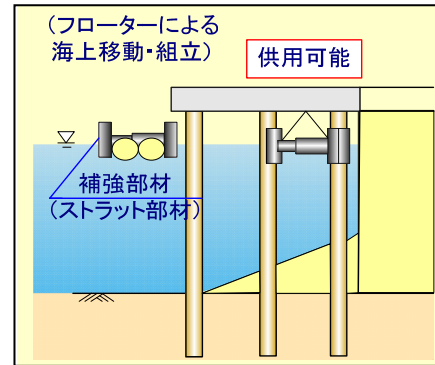
宮城県：東日本大震災からの復興完遂に向け、全力で工事等の促進に励んでおります。
あおみ建設：“海洋土木”と“地盤改良”この2つの強みを生かしつつ、進取の気概をもって、今後ともチャレンジしてまいります

【受賞概要】

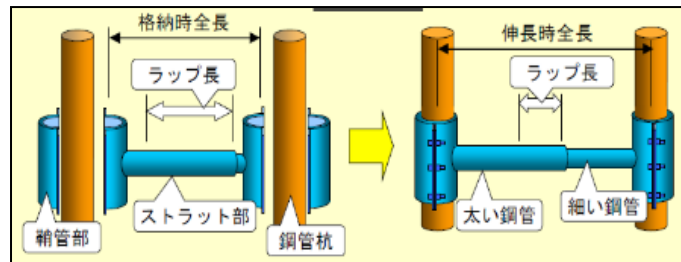
仙台塩釜港西ふ頭栈橋・観光栈橋災害復旧事業は平成23年東日本大震災により被災した、遊覧船や離島航路の船舶が利用する施設の復旧事業です。当該箇所における、遊覧船などの利用は年間約30万人以上に上ることから、供用しながらの復旧が最重要課題でした。被災による沈下(37~40cm)を上部工の嵩上げにて復旧する際、下部工の耐力の補強が必要とされ、上部工を撤去することなく基礎杭の剛性を高め補強可能な「Re-Pier工法」を取入れたものです。



概念図



施工手順



補強部材の構造



現場での施工状況

【取り組みのポイント】

- 設計段階においては、現地合わせ可能な補強材を使用することで、従来必要とされる杭の測量を実施する必要が無くなったこと。
- 工事段階では、上部工を撤去せずに鋼管杭を補強することが可能となり、そのため工期が短縮でき、栈橋の供用への影響を最小限に抑えることが可能となったこと。
- 本事業においては、すべての部材の工場製作によるプレキャスト化、水中移動が可能な専用フローターの活用等で、施工の効率化に努めて生産性向上を実現したこと。

【本件に対する問い合わせ先】

あおみ建設株式会社土木本部技術開発部
TEL 03-5439-1014
Mail:netis@aomi.co.jp